学会だより

学会活動報告

1. 平成2年度総会，講演会等

平成2年度のお茶の水地理学会総会・講演会は，5月12日（土）午後1時30分から一般教育2号館102室で開催された。参加者は49名であった。総会では，平成元年度事業報告・会計報告，平成2年度事業計画案・予算案が報告，承認された。併せて，平成2年4月10日現在の会員状況及び新入会員の紹介が行われた。また，地理学教室の創始者である飯本信之先生がお亡くなりになられた後，初めての総会であったので，全員で黙禱を捧げた。

引き続いて行われた講演会では，女高師助手をなさっておられた籠瀬良明先生（日本大学非常勤講師）によって「自然堤防遍歴の一コマ」と題する講演が行われた。

懇親会は、同日夕刻に昨年3月でご退官になられた浅海重夫先生の退官記念祝賀会が行われたため，開催されなかった。

2. 談話会

11月17（土），江波戸昭氏（明治大学教授），栗原武美子氏（昭和52年修士課程入学，明治学院大学・本学非常勤講師）のお二方を講師にお迎えして開催された。

江波戸昭氏は，数年来本学で非常勤講師として「文化地理学」等の講義をご担当いただいている。豊富なご研究の中から，当日は「長い歌と短い歌－歌の地域性を求めて」をテーマに，実際に歌をテープで流しながら解説していただいた。また，栗原武美子氏は，本年度から非常勤講師として一般教育「国際関係論」をご担当いただいているが，当日は，昨夏に訪問されたミクロネシアのヤップとパラオについて，「「地球の楽園」の歴史」というテーマで，スライドを中心にお話いただいた。

3. 見学会

4月22日（日），「京葉埋立地区における土地利用の時代的変化－最近のウォーターフロント開発の実態を中心に－」をテーマに，26名が参加して行われた。案内者は遠藤幸子氏（22回生）であった。昨年春に開通したJR京葉線の新木場駅から蘇我駅まで，変貌著しいこの沿線の開発状況を見学した。

4. ニューズレターの発行

No.17　1990年7月31日（4ページ）
No.18　1991年1月31日（5ページ）

5. その他

(1) 平成3年度総会，講演会は5月11日（土）午後2時から開催の予定である。また，懇親会は，同日午後5時から，音羽通りのレストラン「グランドール」で開催される。

(2) 役員（平成2年度～3年度）

総務　井内　昇
企画　式　正英，杉谷　隆，和田明子，瀬戸玲子，小野美代子，向後紀代美，小玉美意子，渡辺真紀子，栗原武美子
編集　井内　昇，田宮兵衛，岡田久美子，鈴木陽子，一瓶直子，青島朋子，村山朝子，小笠原洋子，末吉由佳理，福嶋依子，葉倩瑋
会計　内藤博夫，木曽久子，厚井和子，滝沢由美子，遠藤幸子，新井桂子
庶務　栗原尚子，久保幸夫，飯本節子，小池とみ子，東山セツ子，宇佐美彰子，菊池美千世，新井桂子，小林里美，木村真冬

（敬称略）

(3) 会員数（平成2年4月10日現在）

総会員数　552名
学部卒業生会員　420名（卒業生575名）
大学院・専攻科修了会員　12名（修了者21名）
学生会員　91名
大学院会員　3名
教官会員　6名（卒業生を除く）
特別会員　20名（会費免除会員5名を含む）

会員消息

[redacted]

地理学教室動向

1. 教官の異動など

浅海重夫教授は平成２年３月31日付をもって無事退官された。37年半にわたる本教室への御盡力を含め既定の條件が充たされていることが認められ，５月14日名誉教授の称号が授与された。これは本教室にとっても大変に慶ばしいことである。その後の自然地理学講座には杉谷隆氏を東京大学教養学部よりお迎えし，４月１日付で専任講師となられた。専攻は自然地理学とくに河川地形学であり，昭和31年生まれの新進学徒である。

久保幸夫助教授（情報学）は，慶応大学環境情報学部より強く割愛希望があり，残念ながら３月末を以って本学を退官され，４月１日付で慶応大学に赴任されることになった。同助教授は５年間本学に勤務されたことなり，その間学内及び教室の諸活動に大いに活躍された。後任の情報学助教授には千歳寿一氏（東京都職員研修所課長兼専任講師）が着任される。昭和８年生まれ，地理情報学，都市地理学の専攻で教育・研究のベテランである。

井内昇教授は，平成２年３月末で附属小学校長の３年間の任期を満了し，兼職を解かれた。

教官の学内委員会の就任状況（平成２年度）は以下の通りである。

式正英教授（教室主任，予算委員，施設計画委員，生活環境研究センター運営委員），井内昇教授（４年生補導委員，生活環境研究センター研究委員，人間文化研究科講座委員），内藤博夫教授（４年生補導委員，購入物品機種選定委員，人文科学紀要編集委員），栗原尚子助教授（２年生補導委員，学芸員課程委員），田宮兵衛助教授（３年生補導委員，臨海実験所運営委員，廃水管理委員，入試方法検討委員），久保幸夫助教授（１年生補導委員，臨海実験所運営委員，RI実験室運営委員，情報処理センター運営委員），杉谷隆専任講師（１年生補導委員）。

また、栗原助教授は，平成２年７月23日～８月24日，文部省科学研究費による海外学術調査のためスペイン，イタリアに出張した。久保幸夫助教授は，平成２年７月21日～８月８日，第４回空間データ処理シンポジウム出席のためスイス，イタリアに出張し，同年11月７日～12日，地理情報システム・国土情報システム90出席のため米国へ研

修旅行をした。

2. 専任教官の担当科目

式　正英教授：地誌学，地形学Ⅰ，地図学，地理学演習Ⅲ，地理学演習Ⅳ，野外巡検，卒業論文指導，地誌学特論Ⅰ（院），同演習Ⅰ（院），自然地理学演習Ⅰ（院），野外調査（院）

井内　昇教授：地理学概論，集落地理学，地理学演習Ⅰ，都市地理学，地理学特講Ⅴ，地理学演習Ⅳ，野外巡検，卒業論文指導，人文地理学特論Ⅱ（院），同演習Ⅰ（院），野外調査（院）

内藤博夫教授：経済地理学Ⅰ，日本地誌Ⅰ，地理学演習Ⅲ，経済地理学Ⅱ，地理学演習Ⅳ，野外巡検，卒業論文指導，地誌学特論Ⅳ（院），同演習Ⅱ（院），野外調査（院），地理学（一般）

栗原尚子助教授：地理学概説，外国地誌Ⅳ，地理学演習Ⅰ，社会地理学，地理調査法，地理学演習Ⅳ，野外巡検，卒業論文指導，人文地理学特論Ⅳ（院），同演習Ⅱ（院），野外調査（院）

田宮兵衛助教授：気候学Ⅰ，地理学演習Ⅱ，気候学Ⅱ，自然地理学実験Ⅰ，地理学演習Ⅳ，野外巡検，卒業論文指導，自然地理学特論Ⅱ（院），同特論Ⅳ（院），同演習Ⅱ（院），野外調査（院），地理学（一般）

久保幸夫助教授：日本地誌Ⅱ，写真地理学，地理学演習Ⅳ，野外巡検，卒業論文指導，地誌学特論Ⅴ（院），野外調査（院），情報学Ⅰ（一般），同Ⅱ（一般），情報処理講義演習A（一般），情報学特講（学部共通）

杉谷　隆専任講師：地質学，地理学演習Ⅱ，地形学Ⅱ，自然地理学実験Ⅱ，野外巡検

3. 非常勤講師とその担当科目

鈴木陽子：地図学演習
菅野峰明（埼玉大学教授）：外国地誌Ⅲ
江波戸昭（明治大学教授）：文化地理学
渡辺真紀子（中央学院大学専任講師）
　：土壌地理学
武内和彦（東京大学助教授）：植物地理学
和田明子（都留文科大学教授）：地理学特殊講義Ⅰ
伊藤喜栄（慶応大学教授）：地理学特殊講義Ⅱ
二瓶直子：地理学特殊講義Ⅲ
青野寿彦（中央大学教授）：地理学特殊講義Ⅳ
山田安彦（千葉大学教授）
　：自然地理学特論Ⅴ（院）
荒牧重雄（東京大学教授）
　：地学（地質鉱物）（一般）
栗原武美子：国際関係論（一般）
吉田裕亮（統計数理研究所助手）
　：情報処理講義演習B（一般）
坂下英喜（お茶大附属中学校教諭）
　：社会科教育法（教職）

4. 推薦入学制度，学士編入学制度などについて

本教室は平成２年度生の採用から，従来の通常の入学試験の他に，推薦入学を導入することをきめた。定員22名のうちの「５名ていど」をこの方法で採用することとして発表した。これは国文学科（７名ていど）と共に文教育学部では初めて，他学部では数年前より採用している。平成２年11月すでに平成３年度生の推薦入試が実施されており，外国文学科中国文学（４名ていど）が更に加わった。入試の方法を複数にすることで，学生の質の多様化を計ることがその目的の一つである。実際にはこの方法で平成２年度６名入学，３年度も６名の入学が予定されている。

学士編入学制度については，以前からこの制度があり受入れ可能学科が予め意志表示をして，その都度入試を実施し採用して来た経緯がある。本教室でも在来受入れの意志を示したことはあっても応募がない状況であったが，３年前より状況が変って来た。連年応募があり，昭和64年度，大阪外国語大学蒙古語科，平成元年度，学習院大学経済学部，平成二年度，青山学院大学文学部出身者が各１名編入学した。編入学者は入学時３年生の学籍となる。

なお一般の学部試験において，その第二次試験の学力検査科目は地理学科では従来「国語」と「外国語」であったが，平成２年度からは教育学科（心理学），舞踊教育学科（舞踊教育学）とともに，上記の他に「数学」と「外国語」でも受験できるようになった。これも学生の質の多様化に沿う方向であり，また地理学の多角的アプローチにも叶うものであろう。